



『無題』1991年
陶土 232×945×211mm



谷口 ちよ子 Chiyoko Taniguchi
1951年～ /滋賀県在住

谷口さんは、粘土造形に関わり始めて30年以上にもなります。彼女は重い障害がありますが、粘土との出会いが彼女の感覚をとりこにし、粘土を最高の友達のひとりとしてつき合ってきました。うまく言葉にできなくて、やり場のない思いを、柔軟な粘土に向かってたたきつけたり、丸めこんで閉じ込めたりしているようです。

彼女の心の中の、喜びや怒りなどのさまざまな思いが、粘土を通じて形となっていきます。

60歳を過ぎた今も、彼女は鋭い感覚、機敏な行動、周囲の雰囲気をつかみ取る敏感な感受性など、独自のセンサーを持っています。

彼女の粘土制作を見ていると、「粘土は、彼女にとって、かけがえのない友達なのだ」と思えます。ときには、粘土を頭などに塗って、その気持ち良い一体感を楽しみます。また、やり場のない思いから、粘土の大きなかたまりをバンバシ

と棒でたたきつけ、思いを吐き出すのです。

誰よりも敏感な彼女は、自然が育んだ粘土のもつ豊かな力を知っているのかもしれない。

『無題』1993年
陶土 272×287×343mm



『無題』2001年
陶土 232×287×313mm



谷口 ちよ子